

上田市長（以下、市長）

ノルディックスキー世界選手権札幌大会まで、あと二カ月を切りました。今日はこの大会の広報大使である原田さんにお話を伺っていきます。まず、ジャンプを始めたきっかけは？

原田雅彦さん（以下、原田）

ジャンプという競技との出会いは、わたしが小学三年のときでした。わたしの生まれた上川町では、子供用の小さなスキー場があるんです。そこで普通のゲレンデスキーをやっていたんですが、次第に刺激が欲しくなってきました。隣のジャンプ台で少年団の小学生が飛んでいるのを見ていましたから、「自分もジャンプをやってみよう」と思うようになりました。そんなときにジャンプ少年団の指導者の方から誘いを受け、少年団に入ったのが始めたきっかけです。

市長 やはり小学三年の時からオリンピックを目指す気持ちはあったんですか？

原田 いえいえ、まさか。とにかく仲間とワイワイやる、一緒に頑張れることが楽しくて、面白い。当時はそれだけでしたよ。そのとき少年団で知り合った友人とは、今でも交流があります。

新春特別対談

1968年上川管内上川町生まれ。小学3年からジャンプを始める。1987年雪印乳業株に入社し、以後、ジャンプの日本代表として活躍。オリンピック、世界選手権を通じて日本人最多の9個のメダルを獲得している。昨年3月に現役を引退し、雪印スキー部コーチに就任。札幌市在住。

はらだまさひこ



原田  
Harada Masahiko  
雅彦さん

長野オリンピック金メダリスト  
ノルディックスキー世界選手権  
札幌大会広報大使



上田文雄  
札幌市長

長野での金メダルの感動は、  
今も忘れられません。  
— 原田雅彦 —

長野オリンピックでの感動

市長 その後、実績を積み上げて日本代表になり、一九九八年の長野冬季オリンピックでは団体で見事金メダルを獲得しましたね。日本中を感動の渦に巻き込み、原田さんの明るいキャラクターが大いに発揮されたオリンピックでした。

原田 そうですね。その前のオリンピックで悔しい思いをしましたので、なんとかしたいと思っていました。当日は雪が激しく降るあいにくの悪天候でしたが、そんな逆境をはねのけて、四人が協力し合って頂点にたどり着いたところにドラマ性があったんだと思います。わたし自身にとっても忘れられないオリンピックです。

市長 長く苦しい努力を続け、ここ一番という一瞬の正念場では最高のジャンプを決める。まさに偉業ですよ。世界一である原田さんが札幌にいてくれることを、心から誇りに思います。

日本ジャンプ陣が大逆転の金メダル

1998年長野  
冬季オリンピック

1994年のリレハンメルオリンピックで銀メダルだった日本ジャンプ陣。その雪辱を果たすべく臨んだ長野の団体決勝では、吹雪に悩まされ1本目を終えて4位。金メダル獲得に暗雲がかかったと思われた2本目に岡部137メートル、斉藤124メートル、原田137メートル、船木125メートルと、大ジャンプを連発。見事逆転優勝を果たしました。



↑ 2本目で137メートルの大ジャンプを決める原田選手



↑ 日の丸飛行隊の再来と呼ばれた日本ジャンプ陣（左から原田雅彦、岡部孝信、斉藤浩哉、船木和喜の各選手）